

会長挨拶

一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会
会長 伊藤弘之

皆様、こんにちは。

先程の第157回理事会において、会長に選任されました伊藤でございます。「令和」最初の会長として、大変、身の引き締まる思いでございます。微力ながら会長の職を精一杯、務めさせて頂きましますので、会員の皆様、関係者の皆様にはご指導、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本日はお忙しい中、かくも多くの会員の皆様にご参集頂きまして、誠にありがとうございます。また、ご来賓として通常総会には経済産業省の木原金属技術室長様に臨席頂き、全国大会には兵庫県知事の井戸様、神戸市長の久元様をはじめ関西地区の高炉、電炉メーカーから多くの幹部の皆様に休日にも関わらず、お越し頂きました。心より御礼申し上げます。そして関西支部の木谷支部長、実行委員の皆様並びに関西支部の会員の皆様には、このように素晴らしい大会を設営頂きましたことを心より感謝致します。ありがとうございます。

さて、政府によりますと、景気は緩やかな回復基調を継続しているとのことですが、鉄スクラップ需給に最も関係が深い電炉鋼生産は、東京五輪関連等の建設需要の天井感から基調に変化が見られます。鉄スクラップの国内供給量は平成28年10月～12月以来10期連続で前年水準を上回って推移し、ここに来て下降に転じておりますが、業況は総じて堅調であります。

鉄スクラップ業におきましては、中長期的には日本国内での少子高齢化、人口減少などに伴い、鉄スクラップ発生量は減少傾向にあると思えます。また環境費用等の諸コストの上昇や慢性的な人手不足等といった多くの課題を抱えております。事業環境は決して楽観はできません。情報を受け取るアンテナを高くし、様々な情報を収集していくことが肝要と考えております。

先程の通常総会においてご報告させて頂きました事業計画に記載のとおり、当工業会は時代や社会の課題、ニーズと真摯に向き合い「社会との対話」を常に考え、工業会活動に取り組んで参ります。特に重点施策としてこれまで通り「国際化への対応」、「環境規制に対する正面からの取組み」、「明日の業界を担う人材の育成」、及び「業界内外への情報発信」を大きな柱として、積極的に事業活動を展開したいと思います。例えば、昨日は2年ぶりに国際鉄リサイクルフォーラムを開催しましたが、国際ネットワーク委員会のご努力のおかげで海外の関係機関との活発な意見交換、情報交換を行いました。また、15年ぶりに工業会のホームページの全面リニューアルを行い、情報発信力を高めます。環境分野ではリサイクルを先進するEUでのサーキュラーエコノミーの状況の調査を計画しています。

こうした重点施策の継続的な取組みに加え、わが工業会の足もとに目を移しますと、一昨年から今年に掛けて中国の資源性廃棄物の輸入規制が強化されたことにより、国内のみならず海外においても、資源回収及び廃棄物処理に大きな影響が発生しています。これまで先進

国は実質的に廃棄物処理の多くを中国に委ねてきたことは否定できません。雑品スクラップも中国への輸出が出来なくなり、国内で発生した雑品スクラップは国内で処理する必要性が高まっております。これにより H2 スクラップへの非鉄類混入による品質低下やシュレッターダストの処分場不足等の深刻な事象が現れております。鉄スクラップのリサイクルシステムを揺るがしかねない大きな懸念材料となっております。これらが続けば、鋼材製品の品質不良につながる恐れがあり、海外市場における日本産スクラップの競争力低下にもつながりかねません。こうした事態に九州支部と中国四国支部では対策委員会を立ち上げ、非鉄混入やダストの問題の改善に向けた検討が開始されました。また、中部支部でもメーカーを交えて協議が行われるなど各支部での取り組みが進んでおります。こうした各支部での取り組みや全国ベースでの取り組みを求める声を踏まえ、工業会として鉄スクラップの品質改善に向けて情報交換、情報の共有を進め、品質向上に向けた対策を検討することとし、「品質改善特別委員会」を立ち上げることに致しました。全国大会の終了後、直ちに委員会の立上げについて具体的な検討に入ります。会員の皆様のご協力をお願い致します。

さらに昨年 9 月に開催しました普通鋼電炉工業会との協議会を継続し、鉄スクラップの品質問題等について意見交換を行い、さらなる意思疎通を図りたいと考えております。

また、本年 4 月から新たな外国人材の雇用に関する在留資格制度がスタートしましたが、当工業会は既存の外国人技能研修制度への登録がないため、新制度の適用を受けることができておりません。地方においては労働者確保が非常に難しく、外国人材の雇用を考えざるを得ないという声が多く聞かれ、外国人材の雇用は避けて通れない課題になってきております。ついては、外国人技能研修制度への正式エントリーも見据え、外国人材の雇用に向けた方策等について調査を進める所存でございます。

「令和」は若い世代が積極的に頑張る時代であってほしいと思います。昨日、新しい試みとして鉄スクラップ業界の若い方が全国から一堂に会し、将来を議論する「青年大会議」が開催されました。残念ながら、私は年寄りですので顔を出すことすら許されませんでした。多くの若手が参加し、自由闊達に将来を語り合ったと伺っております。新たな時代の幕開けにふさわしい会議であったと思います。将来を支える全国の若い力が連携し、団結して、新たな鉄スクラップ業の在り方を考え、積極的に意見発信されることを望みたいと思います。それを我々もしっかり受け止めたいと思います。

日頃はライバル同士であっても、一同に会し、笑顔で挨拶し、多くを語り合える仲間として交流し、友好を深めることができるのがこの場の良いところです。対応していかなければならない課題はたくさんあります。会員の皆様がまとまり、一致団結して活動していくことで解決への道筋も見えて参ります。そうした工業会の団結を育む場として大いにこの場を活用し、交流を深めて頂きたいと思います。

本日、神戸に参集した皆様にとりまして、実り多き全国大会になりますことを心から祈念いたしまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。